



廃棄物学会ホームページの ドメイン取得&リニューアルのお知らせ

1. ホームページアドレスが変わります

従来、若手の会の有志で行ってきた学会ホームページ(HP)の運用を、学会業務として正式に位置付け、学会からの情報発信の場として本格的に運用していくことになりました。

これに伴いまして、廃棄物学会の独自のHPドメイン <http://www.jswme.gr.jp> を取得しました。覚えやすく、入力も容易になりますので、ご愛用ください。新アドレスへの移行は、3月15日を予定しています。

2. 学会ホームページがリニューアルされます。

また、新年度よりデザインを一新したHPがリニューアル・オープンいたします。この原稿の執筆段階ではまだ最終版のHPになっておりませんが、現在検討中のHPデザイン案を掲載いたします。

コンテンツにつきましても、各委員会でそれぞれ作成・運用し、順次更新していく予定です。新規コンテンツとしましては、例えば編集委員会からは、学会誌・論文誌の目次・ABSTRACT が提供され、さら

にキーワード検索ができる予定です。また研究委員会からは、『廃棄物研究レビュー』データの追補版が提供され、HPから文献情報等が入手できる予定です。その他、各委員会や地区からの情報発信が行われていく予定ですので、ご期待ください。



平成14年度総会開催のお知らせ

平成14年度総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様の参加をお願い申し上げます。なお、正会員各位には、5月上旬に総会資料をお送りいたします。総会に参加できない正会員の方は、総会資料に綴じこんである委任状を忘れずにお送り下さい。

また、総会終了後、懇親会を予定しております。併せてご参加下さい。

開催日時：平成14年5月23日(木) 15:45～

開催場所：大田文化の森 1階ホール (東京都大田区中央2-10-1 Tel:03-3772-0700)

※総会は、平成14年度研究シンポジウムと同時に開催されます。開催場所についての詳細は、別紙「平成14年度研究シンポジウム開催要領」をご覧ください。

左記概要の第13回研究発表会において、日韓廃棄物学会協力協定に基づく交流事業の一つとして、国際セッションが実施されます。このセッションは、海外の研究者や在日外国人研究者に研究成果を発表する場を提供する意味も含め、発表及び質疑応答を英語で行います。例年20件程度の論文が寄せられ、分野別に活発なセッションが行わ

れています。

本年は、下記要領で発表論文を募集いたしますので、積極的な参加をお待ちしております。

なお、英文の募集要領が必要な場合は、廃棄物学会事務局に請求して下さい。

国際セッション発表論文の募集要領

- ①内 容：廃棄物に係わるあらゆる調査研究の成果。ただし、日本語セッションで発表する論文の英訳発表は不可。
- ②応募資格：(1)登壇者は、平成14年5月末現在で本年までの年会費を完納している本会正会員・学生会員、または所属する団体・企業等が公益会員・賛助会員である場合に限り、**共著者に本会正会員を1名以上含むこと**。公益会員・賛助会員に所属する者のみの発表は不可。
(2)韓国廃棄物学会会員及び国際セッションのみに参加する外国人。
- ③研究発表方法：口頭発表のみで発表10分、質疑応答5分の予定。発表論文を「講演論文集」に掲載する。登壇は一人につき1件に限る。ただし、日本語セッションの口頭発表登壇者であっても、国際セッションでも登壇できる。優秀プレゼンテーション賞の表彰を行う。
- ④論文形式：(1)任意のA4版白紙片面に、左右に22mm、上下に28mmの余白をそれぞれとり、その枠内に**42行程度のピッチで英文のみ**で記入する。この原稿をそのままオフセット印刷するので、鮮明なオリジナル原稿を送ること。
(2)原稿の長さは**3ページ以内**。
(3)第1ページは、1行目に題目を用紙左端より**45mm以上あけて書き出し**、1行あけて発表者名及び勤務先名（登壇者には氏名の前に○印を付す）を右側に寄せて書き、1行あけて本文を書き出す。第2ページ以降は1行目から書く。原稿へ記載する発表者の数は自由。ただし、プログラムには発表申込書に記載された順に3名のみを記載する。
(4)本文等の文字は原則としてTimes New Romanの12ポイント（黒字のみ）とし、題目には本文よりも大きな文字を用いる。
(5)図表や写真は、原稿の適当な位置に直接記入するか、上端のみを貼付する（ペーパーボンド、両面粘着テープ等が適当、セロハンテープは不可）。
(6)第1ページの末尾に左端から右端まで区切り線を入れ、代表連絡者氏名、連絡先、電話番号、E-Mail等を記入する。
(7)連絡先の下に、キーワード（5つまで）を記入する。
- ⑤申込方法：上記論文形式にしたがって発表論文原稿を作成し、「**発表申込書**」（第13回廃棄物学会研究発表会発表申込書に英文で記入して下さい。発表区分については口頭発表のみです）と論文原稿を1セットとし、オリジナルを1セット、コピーを4セット（コピーはそれぞれ申込書が先頭になるようにして両面コピーし、左上をホチキスでとめる。）の合計5セットを下記⑨に送付する。なお、提出書類に不足があると受け付けることができない場合があるので、チェックシートで十分に確認の上送付すること。
- ⑥送付期限：**2002年7月1日(月) 当日消印有効（宅配便の場合は当日必着）**。
原稿の持参は受け付けない。
- ⑦採否等：国際委員会が年会委員会と連携して発表論文の採否と区分をし、その結果を8月中旬までに通知する。なお、不鮮明な図表等については、修正を求めることがある。
- ⑧その他：以上に定めのない事項については、左記の「第13回廃棄物学会研究発表会開催要領並びに発表論文募集のお知らせ」及び本ニュースに同封の「廃棄物学会研究発表会論文執筆要領」に定めるところに準ずる。
- ⑨送付先：〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5階 廃棄物学会事務局 国際S論文受付係
○研究発表申込書及び発表論文原稿の到着確認を希望する場合は、表に返送先、裏面に送付した発表論文原稿の題目を記入したハガキ（ただし、下辺から8cmの範囲は空白にしておくこと）を同封する。電話での確認は一切行わない。

今回試行的に行った論文集の事前送付は、約 250 名の希望がありました。このことはアンケート結果にも示されていました。また、学会誌特集号のセッション報告の利用者が予想以上に多いことがわかりました。

下記にアンケート結果を掲載いたしますので、ご参照下さい。
(数字は、回答数です。)

0. 回答者の所属等

- 1) 発表者かどうか(口頭またはポスター)
①発表する(発表者として) **48** ②発表する(共著者として) **22**
③その他 **106**
- 2) 会員資格
①会員(正または学生) **139** ②賛助会員 **25**
③公益会員 **11** ④非会員 **16**
- 3) 所属
①教育研究機関 **49** ②国・地方自治体など **34**
③メーカー **60** ④コンサル **15** ⑤その他民間企業 **26**
⑥その他 **9**

1. 講演論文集について

- 1) 1編あたりページ数
①3ページ **97** ②2ページに減らす **46** ③4ページを許す **49**
- 2) ページあたり字数
①2000字(現状) **137** ②字数を多く(文字を小) **30**
③字数を少なく(文字を大) **20**
- 3) 発表者連絡先(1ページ目の下に住所、氏名、連絡先、電話、Eメールアドレスを記載)
①現状でよい **179** ②不要 **6** ③一部不要 **5**
④追加すべき項目あり **2**
- 4) 論文集の CD-ROM 化
①論文集のみで CD-ROM は不要(現状) **27**
②CD-ROM のみで論文集は不要 **14**
③CD-ROM とし、希望者に論文集 **64**
④論文集とし、希望者に CD-ROM **87**
- 5) 電子ファイル(Microsoft Word 又は Adobe Acrobat)で論文を送付すること
①協力できる **153** ②協力できない **2** ③その他 **5**
- 6) 論文集の事前受け取り
①希望する **149** ②希望しない **37**

2. 発表

- 1) 登壇者の発表資格 (現在: 共著者に正会員が含まれていることを条件としており、非会員・賛助・公益会員も含む) の発表を認めています)
- ① 著者に会員が含まれればよい (現状) **172**
- ② 会員に限るべき **20**
- 2) 発表時間 (現在: 質疑含めて 15 分)
- ① 15 分 (現状) **159** ② 短くすべき **3** ③ 長くすべき **33**
- 3) 並行開催セッション数 (現在は 7 セッション)
- ① 現状程度でよい **173** ② もっと会場数を増やしてよい **11**

- 4) 発表内容 (現在はPR 色の強い場合を除いて採択しています)
- ①特に問題はない **117**
 - ②学術的内容によらず、広く論文を受け入れるべきである **37**
 - ③学術的内容を重視し、発表数を絞り込むべきである **27**
 - ④その他 **4**

3. セッション報告、発表要旨

- 1) 学会誌「研究発表会特集号」(翌年1月発行)掲載の「セッション報告」
 ①よく読む **44** ②たまたま読む(読んだことがある) **100**
 ③読んだことがない **41**
- 2) 「セッション報告」の内容(現状は各発表の個別報告)
 ①役に立っている **81** ②セッション全体の総括にすべき **39**
 ③特に必要ない **39**
- 3) 発表要旨のデータベース化(発表申込用紙に発表者自身が記入する要旨を使用)
 ①データベースがあれば活用する **136** ②特に必要ない **38**

4. 開催地、曜日

- 1) 開催地 (現在は8年を一回りとし、関東4、関西2、九州1、北海道1の割合)
 ①現状の関東・関西中心でよい **136** ②地方開催希望 **51**
- 2) 地方開催の場合
 ①参加する **125** ②参加しにくい **58**
- 3) 開催曜日 (現在は火水木または水木金)
 ①土日に開催してもよい **41** ②現状がよい **149**

5. 企画

- 1) 現在実施している企画について、
必要:①特別講演 **126** ②シンポジウム **111**
③施設見学会 **116** ④市民展示 **75**
不必要:①特別講演 **8** ②シンポジウム **7** ③施設見学会 **18**
④市民展示 **23**

6. 学会ホームページの情報

- 1) 研究発表会の情報(開催内容など)
 ①活用している **72** ②知っているが活用していない **66**
 ③知らない **51**
- 2) 研究発表会プログラムがホームページに掲載されていることについて
 ①知っている **105** ②知らない **84**
- 3) 発表申込書がホームページからダウンロードできることについて
 ①活用した **34** ②知っていたが活用していない **70**
 ③知らない **84**

廃棄物学会1年の歩み

平成13年は21世紀幕開けの年としてスタートした。デフレの進行、大型倒産、過去最高の完全失業率、国内初のBSE（いわゆる狂牛病）の発生、米国同時多発テロの勃発と報復といった暗いニュースの多い年であった。一方、気候変動枠組み条約第7回締約国会議（COP7）の合意で、温暖化防止に向けた国際的な体制づくりが進んだ年でもあった。

廃棄物関係では、1月に1府12省庁体制の省庁再編が

行われ、廃棄物行政は環境省に統合され、2000年に成立した「循環型社会形成推進基本法」をはじめとする制度の実行を始める年となった。

このような情勢のなか、当学会では各委員会、地区連絡会により様々な行事が開催された。平成13年1月から12月までの活動状況は次のとおりである。

（事務局会議 大塚康治・竹内敏 記）

平成13年の活動状況

月 日	行 事	開催場所	テーマ・内容	参加者
1月24日	第2回中国・四国地区連絡会セミナー	岡山市	「環境を考える」 3講師による講演会	90名
2月 5日	平成12年度市民・学生のための 廃棄物セミナー（企画委員会）	品川区	「こうしよう！生ごみ処理」 5講師による講演会	50名
3月 1日	平成12年度技術セミナー （企画委員会）	大田区	「廃棄物処理施設等におけるISO14001認証取得の現状と課題」4講師による講演会、見学会	55名
3月24日	関西地区連絡会 市民と学生のためのセミナー	大阪市	「めぐりめぐるごみと欲望～環境と循環」 3講師による講演会	130名
5月28日	平成13年度総会	千代田区	12年度事業報告・収支決算・監査結果報告、 13年度事業計画・収支予算審議、学会賞表彰	125名
5月28日 ～29日	平成13年度研究シンポジウム （研究委員会、年会委員会）	千代田区	年会委員会企画によるシンポジウム2件と研究部会企画 による4件のシンポジウム	314名
6月21日	東海・北陸地区連絡会 市民フォーラム	名古屋市	「都市ごみの減量化をめぐる市民フォーラム」 6講師による講演会、パネルディスカッション	100名
7月 6日	北海道支部（仮称）セミナー	札幌市	「私たちが直面する廃棄物問題～住民参加と情報共有～」 4講師による講演会、総合討論	143名
8月18日	九州地区懇話会 市民フォーラム	福岡市	「ごみについて徹底討論しよう」 5講師による講演会、総合討論	45名
10月 8日	特別セミナー	新宿区	「廃棄物処理施設におけるPFIの可能性と課題」 1件の基調報告と3件の講演	51名
10月31日 ～11月2日	第12回研究発表会 （年会委員会）	横浜市	特別講演、研究発表(383件)、小集会(6部会)、 国際セッション、優秀発表賞表彰	1,431名
11月 9日	中国四国連絡会 セミナー	広島市	「環境を考える」 3講師による講演会、総合討論	73名
11月20日	関西地区連絡会 セミナー	姫路市	「動き出した家電リサイクルその現状と課題を探る」 見学会、4講師による講演会	68名
11月28日	平成13年度シンポジウム （企画委員会）	千葉市	「進化するストーカ炉」 基調講演、事例発表、総合討論	180名
12月 5日 ～7日	第10回環太平洋有害廃棄物国際会議	岡山市	基調講演、全体セッション、研究発表(81件)、 見学会	17カ国 200名

平成13年度市民・学生のためのセミナー

2002年2月8日

「どうするマテリアルリサイクル-その他プラスチック容器包装の現状と課題」開催報告

春を思わせる暖かな青空のもと、慶應義塾大学の教室一杯の参加者で「どうするマテリアルリサイクル-その他プラスチック容器包装の現状と課題」が開催された。

はじめに、西ヶ谷信雄氏より容器包装リサイクル法（以下容リ法）の成り立ち、内容などについて説明いただいた。

続いて、伊達市の中村恵子氏より容リ法に関するアンケートから読みとれた直面する課題、評価、今後のあり方などを伺った。

次に、マテリアルリサイクルを実施している福田商会の川島章弘氏より分別回収されたその他プラスチックは人手により形態別、素材別に選別し、異種樹脂の混入がない品質の良い材料（ペレット又はフレーク）として市場に戻している現状の説明があった。

さらに、立川市の有竹隆男氏より「油化プラントによるプラスチック廃棄物リサイクル実証事業」を含めたプラスチックごみ処理をめぐる経過が説明され、現行の容リ法ではリサイクルを考えた製品づくりが困難であること、リサイクルを進めるには市民参加が重要であり、行政がきちんと説明すれば 85%～90%の市民が協力すること、市民が協力し易いシステムづくりと素材の単一化によってリサイクルコストを低く抑えられるので、参加自治体が増えるの

ではないか等が熱く語られた。

最後に、経済産業省の田辺靖雄氏から産業構造審議会容リ法WG資料をもとにした容リ法の実施状況の説明があった。マテリアルリサイクルは、難問ばかりと受けとめていたが、市民・事業者・行政のそれぞれの役割実行によって可能なことが分かったセミナーだった。（企画委員会 羽賀育子 記）

▼ 講師の皆さん



○廃棄物学会関西地区連絡会主催・市民と学生のためのセミナー

「講演（森と文明の行方）と舞洲工場見学」

開催日時：平成14年4月20日（土）午後1時～5時

集 合：JR ゆめ咲（桜島）線 桜島駅改札 午後1時

開催場所：大阪市環境事業局舞洲工場内 大会議室（5階）

参加費：1,500円

申込方法：4月10日までに、ハガキ、FAX、Eメールのいずれかで申込

〒530-0041 大阪市北区天神橋3-6-26 扇町パークビル5F

（財）廃棄物研究財団 大阪研究センター気付

廃棄物学会関西地区連絡会事務局 松本

FAX: 06-6354-5029 E-mail: matsumoto@jwrf.or.jp

☆☆事務局だより☆☆

事務局のある東京では、桜の開花が待ち遠しい今日この頃です。古来より日本人にとって花といえば桜を意味してきました。不況が吹き荒れ、暗い話題の多い世の中に桜はひとときの安らぎを与えてくれるでしょう。

さて、私、事務局に入局して3年半、漸く仕事に慣れてきたところではありますが、3月末日をもって退職いたすことになりました。

事務局は職員わずか3人の小さな事務所ですが、その事務作業量は膨大で、厳しい学会経営を目のあたりにしながらの勤務でしたから自分自身の仕事におけるマネジメントが大きな課題でした。とはいえ、1年前、前任の石川さんが退職されてからは、山積みされた作業にただ忙殺されるばかりの毎日でした。先達はあらまほしきかな。飄々と仕事をこなし、塵ひとつ残さず去っていった、彼女の偉大さ、潔さを身にしみて感じるとともに、いづれの日にか自らも、かくありたいと願って仕事をしてきました。しかし、なかなか彼女の様にはいかず、焦りすら感じていました。そして、後ろ髪を引かれる思いではありますが、もうタイムリミットです。

最後になりましたが、会員の皆様には、在職中にいただきました貴重なアドバイス、サポートに心から深謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（廃棄物学会事務局 佐藤典子）

会 員 状 況

H14.2.28 現在
（ ）内は、H13.4.1以降の増減

正 会 員	3623 (220)
学生会員	252 (67)
外国人会員 (DM)	20 (1)
公益会員	116 (5)
賛助会員	216 (15)
計	4,277 (308)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.67 平成14年3月15日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

2100

http://www.jswme.gr.jp
古紙配合率100%再生紙を使用しています